

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 習熟度の差が大きい。国語では、漢字や主語と述語の関係に課題が見られた。算数では、速さなどの単位量あたりの大きさの意味や表し方について課題がみられた。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 「ドリルパーク」「スタディサプ」等のアプリで、個人に蓄積されたデータうまく活用できていない。</p>	<p>振り返りや考えを表す際には、タブレット端末だけではなく、ノートや学習カードなども効果的に活用し、正しく漢字を書けるようになるための指導をする。【毎時間】</p> <p>「ドリルパーク」「スタディサプ」等のアプリで、個別に蓄積されたデータを活用したり、机間指導をしつらして個に応じた指導を行う。【月に1度は確認】</p>
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 振り返りの時間を設定することで、自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力がついてきたが個人差がある。協働的な学習や話し合いの目的意識がなく、課題解決学習の取組に個人差が大きい。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 振り返りの視点が学校で定まっていない。目的意識をもたせずに交流活動を行っている。</p>	<p>学校で系統性のある「振り返りの視点」を定め、それをもとに振り返りを行わせるとともに記述内容を評価していく。【毎単元終了後】</p> <p>交流活動の目的意識や伝え合いの仕方を確認できる学び方カードの活用や、他者参照できるクラウドを活用した授業づくりに取り組む。【毎時間】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		<p>① 結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>② 詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③ 分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		結果提供(2月)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語・算数・理科3教科とも全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して良好であった。国語では、「情報の扱い方に関する事項」の正答率が低かった。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することに課題が見られた。目的や意図に沿って線や囲みなど図示することによって自分なりに情報を整理できるようにすることが重要である。</p> <p>算数では、「変化と関係」に課題が見られた。数直線上に示された数を分数で表す問題で、1より大きい分数として捉えて表すことができない児童が多かった。基準となる数を見いだし、数量の関係をつかえさせることが重要である。</p> <p>理科では、「エネルギー」1粒子)を柱とする領域の正答率が低かった。身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられるかそれぞれの性質の理解に課題が見られた。学習した知識を身の回りに見られる物事・現象と関係付け、物質の性質に関する理解を深めることが重要である。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語・算数・理科3教科とも全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して良好であった。国語では、「話すこと・聞くこと」に課題が見られた。インタビューをする際には、知りたいことを聞く目的に加えて、相手の答えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、聞くときの場面や状況を意識させることが重要である。</p> <p>算数では、「変化と関係」の百分率を倍を使って捉え直し表現することに課題が見られた。知識の修得と活用する活動を行き来しながら理解を深めていくことが重要である。</p> <p>理科では、「エネルギー」を柱とする領域の正答率が低かった。回路を実際の生活の中で行うことに関する理解に課題が見られた。ものづくり活動では、児童が明確な目的を設定し、達成できているかを振り返り、修正するという活動の充実を図り、理解を深めることが重要である。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ① 結果分析(管理職・学年主任等)
- ② 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	<p>振り返りを書かせる際には、主語・述語を意識しながら書かせる。「ドリルパーク」「スタディサプ」等のアプリを活用し、取り組むことができた。蓄積されたデータを確認し、個に応じた指導を行うことはできたが、得られたデータの分析・活用・授業改善のサイクルを効果的につなげていくことに課題が見られる。</p>	<p>今までの授業改善策に加え、授業内での基礎基本の反復練習や板書の工夫をしていく。【毎時間】</p> <p>学習の定着が難しい単元を重点的に扱い、体験的な活動を通して知識・技能の確実な習得を図っていく。【単元ごと】</p>
思考・判断・表現	B	<p>学校で系統性のある「振り返りの視点」を明確にし、それをもとに振り返りを行わせるとともに記述内容を評価していくことができた。</p> <p>交流活動の際は、目的意識を明確にし、伝え合いの仕方を確認できる学び方カードの活用や、他者参照できるクラウドを活用した授業づくりもできた。【毎時間】</p>	<p>今までの授業改善策に加え、朝学習の「対話の時間」でも目的意識を明確にし、自分の考えを整理して表現することや、相手の考えを尊重しながら聞く力の育成を図っていく。【対話の時間ごと】</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)